

あなたがここにいるから・・・

研究発表会を開催します。

本通信でもたびたびお知らせしておりましたが、本校は、西海市教育委員会の指定を受け、「学力向上」の研究に取り組んでいます。

少子化が進む中、本校のように小規模な学校や複式学級を有する学校は、全国的に増加する傾向にあります。とくに、多くの離島を有する長崎県では、その傾向が顕著です。

つまり、「ここ（雪小）」における研究や取組は、長崎県だけでなく全国多くの学校にとって「理想的なモデルともなりうる」と、雪小っ子と全教職員が強力にタッグを組み、これまで取組を進めてまいりました。



<3年 ガイドによる学習> <5年 学び合いのようす>

「自ら学び取ろうとする 雪小っ子の育成」

を目指した本校の研究は、小規模を強みに、37名一人一人の課題の把握・克服と本校独自の主体的な学びのスタイルの確立をめざしたものです。

今年度、取り組んだことは、大きく次の3つです。

- ①子どもが少ないからこそ、一人一人の課題を明確にし、子どもと一緒に課題克服に挑もう。
- ②複式学級での学びについては、子ども自らが学びを進めていく授業を追求していこう。
- ③子ども自らが学びを進める「雪小スタイル」を子どもと一緒に作り上げよう。



<全校 バイキング学習>



<全校 パワーアップタイム>

それぞれの学校がそれぞれの特徴を生かした教育活動の展開が求められる中、特に今年度は、

「本校にしかできない、雪小ならではの授業を追求しよう。」

「全校児童 37 名、その目の前の 37 名の雪小っ子のための研究にしよう。」

を合言葉に取り組んできました。しかし、研究を進めるうちに、先述した3つは、決して小規模の雪浦小だけに必要なことではないということに改めて気付きました。

- 子どもそれぞれの課題を明確にし、その課題を一つ一つ確実に取り除いてあげること
- 子ども自らが主体的に学ぶ授業スタイルへの転換を図ること
- 教師が変わろうとも子どもが迷わない、その校ならではの学びのスタイルを確立すること

このことこそ今、全国すべての学校に求められていることであり、そうした学びを続けている雪小っ子の姿を、ぜひとも多くの先生方に見ていただきたい。

そうした思いのもと、明日11月18日、2年間の研究の成果を「研究発表会」として公開します。

新型コロナウイルスの影響により、残念ながらリモートでの開催となりましたが、西海市内小中学校の先生方には、主役である雪小っ子が自ら学び取ろうと活躍の様子を、画面を通して感じていただけるものと思います。胸が高鳴ります。（文責 校長）

※裏面に雪小っ子の秋の俳句を掲載しています。
運動場横にも掲示しております。